

令和元年度 SGH連絡会(分科会発表)

愛知県立時習館高等学校

研究開発の構想概要

海外連携校（姉妹校）

セント・ポールズ校
セント・ポールズ
女子校
オッター・フォン
・タウベ・ギムナ
ジウム
ジッ・シン校

フォルクスワー
ゲン
デンソー
OSG
国際協力機構
(JICA) など

国内連携企業・機関等

日本の未来を描く
第3学年グローバルコース(文系)

SG グローバル社会探究
SGH 発展学習

世界の中の日本を知る
第2学年グローバルコース(文系)

SG 国際探究 SS&SG ESP II
SG 日本文化探究 II
日英独国際シンポジウム
海外研修

アジアの中の日本を知る
(第1学年)

SG アジア探究 SS&SG LTC
SS&SG ESP I SGカルチャー
SG 日本文化探究 I 海外研修
SGH 特別講演会

海外連携大学・企業等

ケンブリッジ大学
UCL(ロンドン大学)
セインズベリー日
本藝術研究所
在ミュンヘン日本
国総領事館
在ペナン日本国総
領事館 など

愛知大学
名古屋大学
豊橋技術科学
大学
京都大学
立命館大学
東京外国語大学
神戸大学 など

国内連携大学

研究開発事例(カリキュラム開発)

《主な特徴》

- (1) 1年生については、全生徒320名がSGHの対象である。
- (2) 2・3年生についても、グローバルコース(文系)選択者は、全員(それぞれ約120名)がSGHの対象である。
- (3) 3年間を通し、課題研究に段階的に取り組ませる。
- (4) 殆どの教員が、何らかの形で課題研究の指導に関わる。
- (5) 「総合的な探究の時間」の開始を見据え、カリキュラム開発の成果を、県内の学校に普及させるよう努めている。

カリキュラム開発 — 学校設定科目について

【国語科】 SG日本文化探究 I・II

(国語総合、現代文B、古典B の読み替え 1年5単位、2年6単位)

【公民科】 SGアジア探究

(現代社会 の読み替え 1年2単位)

【英語科】 SS&SG English for Social Purposes I・II

(英語表現 I・II の読み替え 1～3年各2単位)

【SS&SG】 探究基礎、SG国際探究、SGグローバル社会探究

(総合的な学習の時間、情報の科学 の読み替え 1年3単位、2・3年各1単位)

カリキュラム開発 — 課題研究を実施する科目①

「SGアジア探究」(1年2単位・公民科)

(1) 前期:「アジアの中の日本を知る」ための基本的な知識や 考え方を習得する(講義)。

後期:グループ課題研究を集中的に実施する。

(外部講師や他校教員を交え、校内発表会を公開実施)

(2) 生徒が課題研究を行うための下地づくりに重きを置く。

① 問題意識の涵養のため、新書レポートを執筆

② 連携大学(愛知大学)の教員および留学生による指導

* 学術論文の研究のため、大学図書館を利用することも可能。

「SGアジア探究」 連携大学による指導と成果発表



↑ 愛知大学の教員によるテーマ設定指導

↓ 課題研究成果発表会(1・2年生全員参加)



カリキュラム開発 — 課題研究を実施する科目②

「SG国際探究」(2年1単位・学校設定教科 SS&SG)

- (1) 1年次の成果を踏まえ、「世界の中の日本を知る」ためのグループ研究を行う。校内発表会を実施(一般公開)。
- (2) 当初はテーマのカテゴリーを限定していたが、昨年度より、複数の分野を横断的に考察することを念頭に、SDGs(持続可能な開発目標)をベースとした研究にシフトしている。
- (3) グローバルコース(文系)の正副担任6名が担当する。
 - 主担当者をSG部(SGH担当分掌)の教員が担い、当該教員間の指導ベクトルを共有する。

カリキュラム開発 — 課題研究を実施する科目③

「SGグローバル社会探究」(3年1単位・学校設定教科 SS&SG)

- (1) 1・2年次の成果を踏まえ、「日本の未来を創造的に描く」ことを念頭に置いた個人課題研究を行う。校内発表会を実施(外部講師は招聘するが、運営上の都合で一般には非公開)。
- (2) 研究はキャリア形成の側面も併せもち、生徒は自分の進路を意識したテーマ設定を行う。また、課題解決における自らの行動計画を考え、発表する。
- (3) グローバルコース(文系)の正副担任6名が担当する。
→ 指導ベクトルの共有については、2年と同じ。

「SG国際探究」・「SGグローバル社会探究」 成果発表



↑ 「国際探究」ポスタープレゼンテーション

↓ 「グローバル社会探究」プレゼンテーション



カリキュラム開発 — 課題研究に関連する科目①

「探究基礎」(1年3単位・学校設定教科 SS&SG)

(1) 課題研究の遂行に必要な論理的・批判的思考力や情報活用能力等を身につけるため、3つの分野から指導する。

①情報分野 ②数理分野 ③総合分野

(2) 各分野とも、他教科との連携を積極的に行っている。

(例:①で公民科、②で数学科、③で国語科・理科・家庭科等)

(3) ①は情報科教員(1名)、②は数学科教員(4名)、③は1年正副担任(計16名)が指導する。

→ 指導ベクトルの共有については、2・3年と同じ。

カリキュラム開発 — 課題研究に関連する科目②

「SS&SG English for Social Purposes I・II」(1～3年各2単位・英語科)

- (1) 学習指導要領の「英語表現 I・II」の内容に、問題発見・解決・説得・即興等の要素を加え、課題研究成果の発信や、将来の国際的な舞台での活動意欲に役立てる。
- (2) アウトプットを量的な面・質的な面双方で充実させるため、平素の演習に加え、以下に挙げる事業を実施する。
 - ① Interactive English Forum
(3人1組のグループトーク。ジャッジを行い、トーナメントを実施)
 - ② English Assembly (留学生とのトーク、ディスカッション)

カリキュラム開発 — 課題研究以外の科目

「SG日本文化探究 I・II」(1年5単位、2年6単位・国語科)

- (1) 世界で活躍する上での必須要件として、日本の文化や伝統を深く知り、それを世界に発信する能力を身につける。
- (2) 文章表現力の向上のため、以下の取組を行う。
 - ① 読んだ文章に対する意見文の執筆
 - ② 読んだ文章に対する小論文の執筆
- (3) 発表力の向上のため、以下の取組を行う。
 - ① 現代短歌の鑑賞を踏まえたプレゼンテーション
 - ② 古典作品の鑑賞と探究活動を踏まえたプレゼンテーション

「探究基礎」・「SG日本文化探究Ⅱ」 特筆すべき取組



↑ 「探究基礎」姉妹校生徒との協働学習

↓ 「日本文化探究」
姉妹校生徒への百人一首に関するプレゼンテーション



教科間の連携について(まとめ)

【国語科】 & 【英語科】

「SG日本文化探究」での英語による古典作品プレゼンテーション

【公民科】 & 【学校設定教科 SS&SG (情報分野)】

「SGアジア探究」でのPowerPointを用いたプレゼンテーション

【英語科】 & 【学校設定教科 SS&SG】

探究科目での英語によるプレゼンテーション及び論文執筆

【学校設定教科 SS&SG】 & 【国語科】【数学科】【理科】【家庭科】

「探究基礎」における教科横断型の主体的・対話的学習

課題研究の指導について(まとめ)①

(1) 3年間にわたる段階的な指導体制

- 1年次: 「探究基礎」での論理的思考力・批判的思考力等の涵養
社会的事象の理解を踏まえた基礎的なグループ課題研究
(PowerPointを用いた日本語でのプレゼンテーション)
- 2年次: 地域・分野横断的なグループ課題研究
(ポスターを用いた英語でのプレゼンテーション)
- 3年次: キャリア形成や行動計画に結びつけた個人課題研究
(ハンドアウトを用いた英語でのプレゼンテーション)

課題研究の指導について(まとめ)②

(2) 成果の共有

生徒： 1・2年 … 校内発表会において、互いの研究発表を見る
(質疑応答にも参加する)

3年 … 過去の研究事例に触れる

教員： 事業成果を含む、情報の共有体制の構築

「SG専門委員会」(管理職、SG部教員、教科代表、事務職員)



教科代表による情報共有

各教科会



職員会議

課題研究の指導について(まとめ)③

(3) 課題研究の指導に関わった教員の割合の推移

平成27年度	41.8%
平成28年度	63.6%
平成29年度	71.2%
平成30年度	67.3% (新たに携わった教員数は増加)

(4) 校内の海外研修プログラムにおける課題研究

日本の諸課題に関する研究を必須とする

→ その成果を姉妹校(英国・ドイツ・マレーシア)で発表

管理機関（愛知県教委）による支援の取り組み等

（1） 人事面での配慮

- ① 非常勤講師加配
- ② 民間委託によるALTを週3日配置

* 拠点校以外の県立高校108校に対し、ALTは計29名 …… 週5日÷(108÷29)≒1.34日/校

（2） 事業の視察及び運営指導委員会への参加。その際、研究開発等にかかる指導・助言を実施

（3） 英語教育拠点校及び県内全高校への成果普及の支援

（4） 「カケハシプロジェクト」訪米研修参加にかかる環境整備

成果の測定について

測定方法：「SG意識調査」(自己評価)の実施

- ・本校が定める8つの要素(30項目)につき、4段階評価

- | | |
|---------------|--------------------|
| ① 論理的・批判的思考力 | ② 課題発見・解決力 |
| ③ 異文化理解力 | ④ プレゼンテーション能力 |
| ⑤ コミュニケーション能力 | ⑥ 英語によるコミュニケーション能力 |
| ⑦ グローバル課題への関心 | ⑧ 自国の伝統や文化を理解する力 |

- ・課題研究本格開始前と、最終発表直後の年2回測定

(平成30年度の3年生は、都合により12月のみ測定)

- ・生徒と教員、それぞれの変容を把握

「SG意識調査」測定結果【生徒】（平成30年度）

* 4段階評価（4が高い）の平均値

	1年5月	1年2月	2年5月	2年2月	3年12月
①論理・批判的思考力	2.8	2.9	2.7	2.7	2.7
②問題発見・解決力	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7
③異文化理解力	3.2	3.1	3.1	2.9	3.1
④プレゼンテーション能力	2.5	2.7	2.6	2.7	2.5
⑤コミュニケーション能力	2.7	2.7	2.6	2.7	2.6
⑥英語コミュニケーション能力	2.1	2.4	2.3	2.5	2.3
⑦グローバル課題への関心	3.2	3.1	3.0	3.0	3.2
⑧自国の伝統・文化の理解力	2.9	2.9	2.8	2.9	3.0

「SG意識調査」測定結果【教員】（平成29～30年度）

*** SGHの取組で、生徒の能力等が高まったか否か**

（「大変増した」「増した」の合計数値）

	平成29年度	平成30年度
①論理・批判的思考力	89%	96%
②問題発見・解決力	96%	96%
③異文化理解力	93%	92%
④プレゼンテーション能力	97%	100%
⑤コミュニケーション能力	82%	100%
⑥英語によるコミュニケーション能力	86%	96%
⑦グローバル課題への関心	85%	100%
⑧自国の伝統や文化に対する理解力	93%	84%
★グローバル課題への学習意欲	100%	100%

成果の普及、指定終了後のビジョン

《成果の普及》

- ① 「課題研究発表会」実施時に、他校教員に向けて実施
 - ・本校教員との質疑応答及び研究協議
 - ・グローバル教育及び課題研究に関する、有識者による講演
- ② 本校教員が他校へ転勤した際にも、普及が期待される

《指定終了後について》

令和2年度より、「あいちグローバルハイスクール」に移行。
5年間の成果と課題を踏まえ、引き続き研究開発に臨みたい。

御清聴ありがとうございました